

第6回まちづくり検討会

Program

- ・ 開会
- ・ グランドデザイン策定に向けたまちづくりの検討について
- ・ グループワーク「オープンスペースを考える」
- ・ 閉会

下丸子駅周辺地区グランドデザイン策定 に向けたまちづくりの検討について

大田区 鉄道・都市づくり部

鉄道・都市づくり課

令和7年6月

1 下丸子駅周辺地区ランドデザイン について

○「ランドデザイン」とは？

☞まちづくり構想に掲げる下丸子駅周辺地区のまちづくりコンセプトの実現に向け、行政と地域の関係者が連携し、より具体的な取組を示す

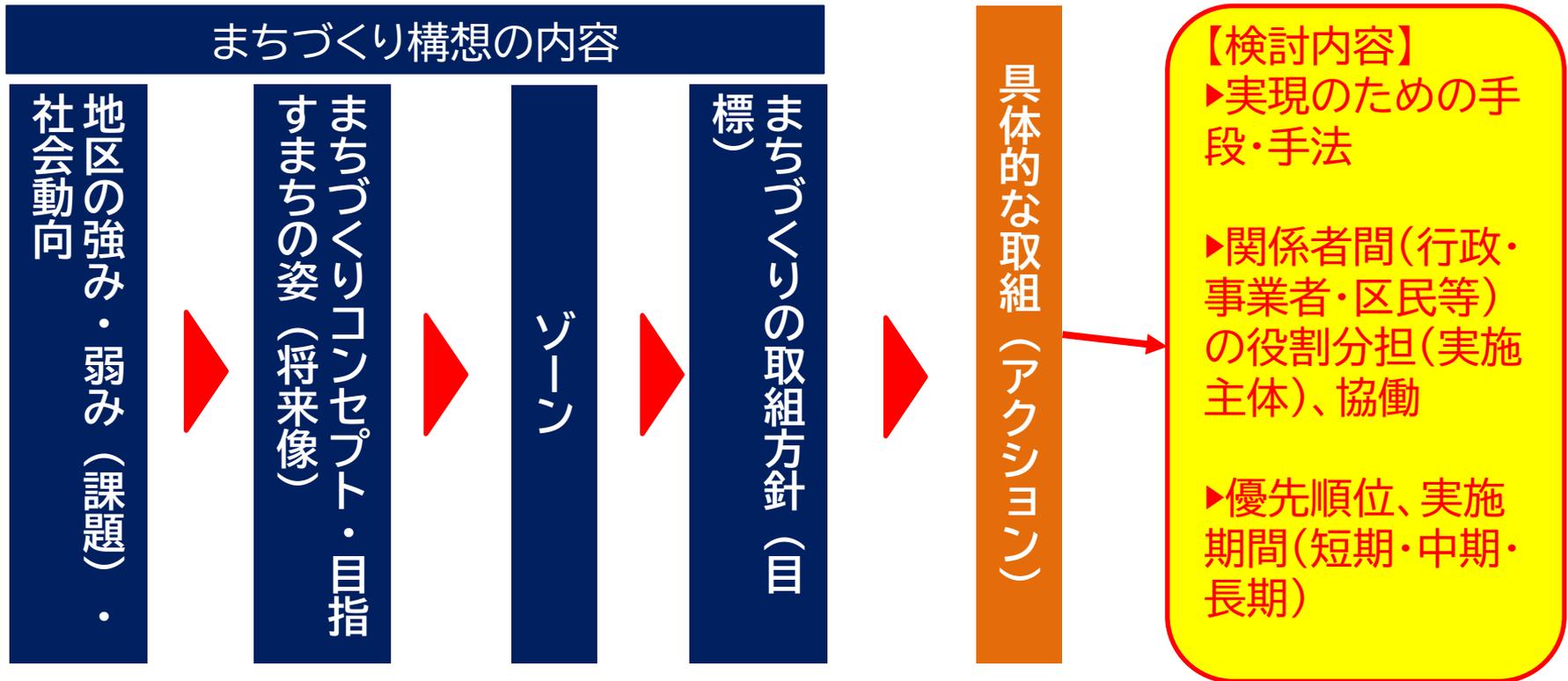
○主な検討内容

- ▶まちづくりコンセプト(目指すまちの姿)に基づく具体的な取組(アクション)の参考となるアイデアの検討(R6)
- ▶まちづくりコンセプト(目指すまちの姿)の実現に資する取組の検討(R7)
- ▶まちづくり推進体制の構築に向けた検討(R7)

主な検討内容

まちづくりコンセプト(目指すまちの姿)に基づく具体的な取組(アクション)

まちづくりの取組(アクション)の構成(案)



まちづくりコンセプト(目指すまちの姿)に基づく具体的な取組(アクション)の参考となるアイデアの検討(R6)

■グランドデザインの取組の検討体制

- まちづくり構想の策定に際しては「地区の関係者をメンバーとした下丸子駅周辺地区のまちの将来を考える会」を開催した。
- グランドデザインの策定においても、地区関係者との連携を図るため、上記「考える会」参加者を中心にメンバーを募り、「下丸子駅周辺地区グランドデザイン策定に向けたまちづくり検討会」を開催した。
- この検討会では「街路を考える」「商店街の活用や新たな産業を考える」「オープンスペースの活用を考える」「地域資源の活用、景観づくりを考える」という4つのテーマに分かれて、取り組むべき施策について考えた。

グループワーク A

「街路を考える」

地区内の街路のあり方について考えましょう。

グループワーク B

「商店街の活用や新たな産業を考える」

商店街でできることや新たな産業について考えてみましょう。

グループワーク C

「オープンスペースの活用を考える」

公園や広場などの公共空間について考えましょう。

グループワーク D

「地域資源の活用、景観づくりを考える」

多摩川や地区の歴史・文化資源、景観について考えましょう。

まちづくりコンセプト(目指すまちの姿)に基づく具体的な取組(アクション)の参考となるアイデアの検討(R6)

■検討プロセス

- 4回にわたる検討会において、まちづくり構想の記載内容をヒントとして目指すまちの姿を抽出し、それに対する現状と課題を整理した。
- それら課題の解決のためのアイデアを練り、取組の提案をいただいた。
- 客観的に検証するため、他グループからも意見をいただいた。
- 結果、右図のような整理がなされた。(図はグループAによる踏切をテーマにした協議の整理)

Aグループ - 踏切

現状把握・課題発見	課題解決のアイデア	取組みの提案	他グループから
<p><現状></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 踏切で街が分断される ✓ ラッシュ時間で駅周辺が混雑する ✓ 踏切の渋滞が発生(歩行者、自転車、車) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 具体的な計画イメージの作成 ✓ 計画スケジュールの作成 ✓ 高架ならできること、地下ならできることを勉強 	<p>イメージの共有 ●●</p>	<p>立体化された駅はエレベーターなど、シニアには不便。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 踏切解消に向けた地権者を含めた機運醸成 ✓ 地域住民を含めた話し合いの場作り 	<p>機運を高める場づくり ●</p>	<p>歩行者、自転車、車のルールづくり</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 踏切で待って楽しめる仕組み ✓ 踏切に対する意識を変える(スローライフ) ✓ 都電荒川線やLRTは街の分断がない 	<p>踏切に対する意識を変える ●</p>	<p>企業には朝の混雑緩和に協力してもらおう(オフピーク通勤、テレワーク)</p>
<p><目指すまちの姿></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 踏切の解消 ✓ 踏切のない街 ✓ スムーズな交通 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 自然な横断(高架の場合) 	<p>横断するネットワークを確保</p>	<p>出通勤ラッシュの右側通行ルール</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ オフピーク通勤、テレワークの推進(地元企業の協力) 	<p>ライフスタイル、仕事の仕方を変える ●●</p>	
<p><解決すべき課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 踏切の解消、対策 ✓ 電車は地下へ、主要道路は高架へ ✓ 鉄道と道路の立体化 ✓ 電車とまちのつながりを残す ✓ 駅上広場 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 立体化(道路、鉄道) ✓ 地下通路 ✓ 歩道橋 ✓ 踏切を1つ廃止 	<p>手法の検討</p>	

参考：下丸子まちづくりマガジン(Vol.2)より

まちづくり検討会発のアイデアをピックアップ!

下丸子“これから”MAP

2024年2月に活動をスタートした「まちづくり検討会」は、約40名の地域関係者から構成され、2024年度は4つのグループに分かれて議論してきました。そこから生まれたアイデアをテーマごとにピックアップし、下丸子の地図にマッピング。メンバーのコメントとともに紹介します!

Group-A

“街路”を考えよう



駅前空間から広がる歩行者にやさしいまちづくり

集客や川原の中で利用者の多い下丸子駅では、適切による混雑が問題になっています。歩行者にやさしいウォークアブルなまちづくりを進めるにあたって、安全と快適に歩ける駅前空間について検討しました。駅前空間を中心に歩道の整備や公共交通の見直しなど、さまざまな観点から解決策を考案。さらに、地区の回遊性向上にも視野を広げ、さらなる歩行者空間の確保や多用途利用のつなぐりの強化など、駅前空間の考え方について議論しています。

メンバーからひとこと
 次野 和寿さん

子育てしている中で、自由な移動はフラットにしたい。歩行者にやさしいウォークアブルなまちづくりを進めるにあたって、安全と快適に歩ける駅前空間について検討しました。駅前空間を中心に歩道の整備や公共交通の見直しなど、さまざまな観点から解決策を考案。さらに、地区の回遊性向上にも視野を広げ、さらなる歩行者空間の確保や多用途利用のつなぐりの強化など、駅前空間の考え方について議論しています。

Group-C

“オープンスペース”を考えよう



多目的に利用できるスペースを駅前やまちなかに増やす

多摩川河川敷や下丸子公園など、住民が体を動かしたり、遊覧したりできる場所が充実しています。一方で、用途が限られていたり、下丸子駅からの距離があったりという課題も。そこで、将来の駅周辺の姿を見直し、駅前広場や公共空間の活用方法を検討。さらに、河川沿いの地域としての特性を活かして災害へ備えることの必要性についても意識し、さまざまな観点から駅前やまちなかの空間の活用方法について議論しています。

メンバーからひとこと
 青木 千恵さん

子どもに楽しんでもらいたい。歩行者にやさしいウォークアブルなまちづくりを進めるにあたって、安全と快適に歩ける駅前空間について検討しました。駅前空間を中心に歩道の整備や公共交通の見直しなど、さまざまな観点から解決策を考案。さらに、地区の回遊性向上にも視野を広げ、さらなる歩行者空間の確保や多用途利用のつなぐりの強化など、駅前空間の考え方について議論しています。

Group-B

“商店街と産業”を考えよう



下丸子ならではの魅力を活かした新しいコミュニケーションの場を

「商店街」や「町工場」は、下丸子のまちの風景を形づくっている重要な文化・歴史のひび。そうした地域ならではの特性をさらに発展させていくためには、地域住民がその地や魅力について理解を深め、新たな活動が生まれる機会を多くしていくことが大切です。具体的には、地域で働く人や企業、商店街の魅力を伝える場の充実、さらに住民同士が気軽に情報交換できる集いの場など、地域活動に関心のある人が気軽に参加しやすい環境づくりについて議論しています。

メンバーからひとこと
 菅原 真さん

下丸子のまちについて若い世代に伝えてほしい。歩行者にやさしいウォークアブルなまちづくりを進めるにあたって、安全と快適に歩ける駅前空間について検討しました。駅前空間を中心に歩道の整備や公共交通の見直しなど、さまざまな観点から解決策を考案。さらに、地区の回遊性向上にも視野を広げ、さらなる歩行者空間の確保や多用途利用のつなぐりの強化など、駅前空間の考え方について議論しています。

Group-D

“地域資源と景観”を考えよう



今ある資源を活かし地域内外から人が集まるまちに

下丸子にはガス橋通りや多摩川河川敷、神社、大田区民フーズなどの地域固有の自然環境や文化資源があります。そうした地域資源を活用し、まちの魅力を高めいくために、地元の情報発信をはじめ、季節のイベントやイベントとの連携、地域をつなぐネットワークの確保など、さまざまな角度からまちづくりを進めるアイデアを検討。既存の資源を最大限に活かし、多様な人が関わるプラットフォームとして、まち全体の魅力を引き上げることを目指して議論しています。

メンバーからひとこと
 前橋 真由美さん

子どもに楽しんでもらいたい。歩行者にやさしいウォークアブルなまちづくりを進めるにあたって、安全と快適に歩ける駅前空間について検討しました。駅前空間を中心に歩道の整備や公共交通の見直しなど、さまざまな観点から解決策を考案。さらに、地区の回遊性向上にも視野を広げ、さらなる歩行者空間の確保や多用途利用のつなぐりの強化など、駅前空間の考え方について議論しています。

